

第 107 回コンパス薬局スキルアップ勉強会

2021/7/13 木本 美帆

アストラゼネカ株式会社

『ビレーズトリエアロスフィア』

アストラゼネカ株式会社 新倉 里奈 様

場所：コンパス薬局瀬谷

参加者：味田村、石田、木本、島崎、菅野、渡辺、小林、常見、島田

慢性閉塞性肺疾患（COPD：chronic obstructive pulmonary disease）とは、タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患であり、喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病である。

薬物療法の中心は気管支拡張薬（抗コリン薬・ β_2 刺激薬・テオフィリン薬）を用いる。効果や副作用の面から吸入薬が推奨されており、主として長時間気管支を拡張する吸入抗コリン薬や吸入 β_2 刺激薬が使用されている。気流閉塞が重症で増悪を繰り返す場合は、吸入ステロイド薬を使用する。長時間作用性 β_2 刺激薬と吸入用ステロイドの配合薬も有用であることが証明されている。

ビレーズトリエアロスフィアはステロイド薬のブデソニド、抗コリン薬のグリコピロニウム臭化物及び長時間作用性 β_2 刺激薬であるホルモテロールフマル酸塩水和物の 3 種類の成分を配合した製剤である。

〈効果・効能〉

慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β_2 刺激剤の併用が必要な場合）

〈用法・用量〉

通常、成人には、1 回 2 吸入（ブデソニドとして 320 μ g、グリコピロニウムとして 14.4 μ g、ホルモテロールフマル酸塩として 9.6 μ g）を 1 日 2 回吸入投与する。

〈禁忌〉

1. 閉塞隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により、眼圧が上昇し症状を増悪させるおそれがある。]
2. 前立腺肥大等による排尿障害がある患者 [抗コリン作用により、尿閉を誘発するおそれがある。]
3. 有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者 [ステロイドの作用により症状を増悪するおそれがある。]
4. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〈用法用量に関する使用上の注意〉

本剤は1日2回、できるだけ同じ時間帯に吸入すること。

〈副作用〉

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- ・心房細動（0.2%）
- ・重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）

〈服薬指導・調剤の注意点・考察〉

配合剤にすることにより1回で複数の治療薬をまとめて服用できるため、使用が容易になり服用忘れも防ぐことができる。内服に比べて手技が煩雑な吸入薬ではこのメリットがより大きくなると考えられる。

同じ3剤合剤の COPD 治療薬であるテリルジーエリプタは自発呼吸により吸入を行うため、COPD が悪化して十分な呼気速度を出せない患者の場合使用が困難となるが、ビレーズトリエアロスフィアはエアゾール製剤のため有用と考えられる。

アクチュエーターの洗浄を行わないと薬剤が詰まり噴霧が正しく行えなくなることがあるため週に1度の洗浄をするように指導する必要がある。

〈質問〉

Q：効果的な吸入のタイミングはあるか

A：いつ使用しても効果は変わらない。

Q：この薬は定時吸入薬であるため急性増悪期に対応するためにも SMART 療法の方が効果的ではないか

A：患者の個々の状態によるため明確な回答はできないが可能性は否定できない。

Q：週に1度のアクチュエーターの清掃を行った後にも空噴霧が必要とあるが治療に必要な吸入数は確保されるのか

A：最初の空噴霧を終えた後でも 60 吸入程度はできるようになっており不足する恐れはない。